

Histry of Exhibition "When I come back to Home in the evening"

日時:2015年6月28日 遠足 決起集会
場所:渋谷ベトナム料理、青山映画館
参加者:杉浦、益永、箕輪、渡辺
○「物語と造形について」の案

日時:2015年7月24日
場所:吉祥寺シャノアール
参加者:杉浦、益永
○プレ打ち合わせ
○打ち合わせの輪郭について

日時:2015年8月1日
場所:調布ガスト
参加者:杉浦、益永、渡辺、(箕輪展示前欠席)
○本を構造(内容・物質)として考える?
○作品における物語性を取り入れる?
○キーワード
・空間(建築・土地・地理)、移動(歩、船、飛、走)、時間 を主題にしているもの
○一回の展覧会で閉じるものとして考えない方が、アイデアが出やすい。
そういう意味で、継続したプロジェクトとして考える。
つまり、展覧会の目的以外に、定期的なりサーチや勉強会のような集まりとしての意味合いをもたすこと。
○次回までに
↓↓↓
本の内容からリサーチして、本を持ち合う
短編もしくは中編に絞る。
○縛り
・空間(建築・土地・地理)を扱っているもの、
移動(歩、船、飛、走、あるいは概念としての移動)、または、時間 を主題にしているもの 等(時代、国問わず、自由に探す)

2015年8月18日
場所:調布ガスト
参加者:杉浦、益永、渡辺、(箕輪展示前欠席)
○リサーチした本の発表
●杉浦『オレンジだけが果物じゃない』ジャネット・ウィンターソン(英・女性)
・アントン・チャーホフ(露・男性)
●渡辺・マザー・グース(英米)
・ドイツのわらべ唄 なぞなぞ(独)
・『レ・コスミコミケ』イタロ・カルヴィーノ(伊・男性)
・『身体としての書物』今福龍太(日・男性)
●益永『この世は二人組ではできていない』山崎ナオコ(日・女性)
・『蛇を踏む』川上弘美(日・女性)
・『カフカ・セレクションⅠ(時空・認知)』フランツ・カフカ(ユダヤ系独・男性)
○物語だとしても短い方がいい
抽象的な解釈ができるもの方がいい。
「なぞなぞ」がおもしろい。
本のアナログ性を活かす方法が展覧会の仕組みにあったほうがいい。
本と作品の共通点は「ヒントは表面にある」こと?
○わからないこと
本と作品の違いは、言語がある・ない だけなのか?
○私たちはただ展示をするのか、あるいはそこで起こるうる出来事を取り込むことができるのか。

日時:2015年9月8日
場所:小平 図書館、国立レストラン
参加者:杉浦、益永、箕輪(打ち合わせ初参加)、渡辺
○各自の持ち寄りを確認
●渡辺・なぞなぞ
・各国のなぞなぞのリサーチ(→哲学的で面白いが、本と作品の関係に発展しないので、積極的保留)
●益永『カフカ・セレクションⅢ 異形・寓意』フランツ・カフカ ちくま文庫
・「ああ、と鼠が言った」
・「夕方帰宅してみると」
・『カフカ・セレクションⅠ 時空・認知』フランツ・カフカ ちくま文庫
・「三軒の家がたがいに接している」
・「山中への遠足」
・「おそらく私は、もっと早くから」
●杉浦『モーム短篇選(下)』サマセット・モーム 岩波文庫(近代、人間の性質、教訓)
・『完訳ペロロ童話集』シャルル・ペロロ 岩波文庫
●箕輪 鏡や夢を想定して選定→4人に共通しているのは、フィクションかそうでないかの両義的な状態を探っているようなところなのではないだろうか。
夢なのか、現実なのか、夢から覚めたのか、現実から覚めたのか、その連環を行き来し続けるようなテーマは設定できないかということで、
夢、鏡などのテーマで本をチョイス
・『鏡の国のアリス』ルイス・キャロル
・『鏡のなかの鏡』ミヒャエル・エンデ
・『古代人と夢』西郷 信綱 平凡社ライブラリー
・『現代語訳 蜻蛉日記』室生犀星 岩波現代文庫
・『変身物語(上・下)』オウィディウス 岩波文庫
・『夢よりも深い覚醒へー3・11後の哲学』大澤真幸 岩波新書
・『神話が考える ネットワーク社会の文化論』福嶋亮大 青土社
・『社会は絶えず夢を見ている』大澤 真幸 朝日出版社

○決まったこと

- ・カフカを読み合わせした結果、「夕方帰宅してみると」と、「ああ」と鼠が言った」が最終候補に。
- うその世界、茶番、フィクション、夢、本、鏡、言葉、探るのはそのあたりのフィールドか。

○次回

- カフカの2つの文章をもとに、作品のアイデアを出し合う。
- また、どんな展示会の組み立てになるかを各自が設定、どちらの作品にするかを定める。
- ミルク倉庫へ打ち合わせに行くための準備
- ※現実と非現実との対比を考える上で、カフカをテーマにもってくる、本にまつわる、あるいはフィクションにまつわる展示会をすることの現在性とはなにか??

日時:2015年9月16日

場所:府中/パスタ屋&調布コマダコーヒー

参加者: 杉浦、益永、箕輪、渡辺

- カフカ「夕方帰宅してみると」に決定(結末のありかた、南の国の要素)
- 作品を作ってみたいのは「ああ」と鼠が言った」しかし、展示会として鼠を救う手立てがみつからず保留。
- 展示会を作ってみたいのは「夕方帰宅してみると」であるというところ。
- 作品の展開可能性とテーマの関係について
- ミルク倉庫への企画書準備

日時:2015年9月23日

場所:吉祥寺ラーメン屋&喫茶店

参加者: 杉浦、益永、箕輪、渡辺

- 企画書作成
- どのような共同体なのか
- 作品をつくるときの共通性と違いの確認
- 表面について
- イメージと物質について
- チラシ用画像撮影

~~~~~

---

日時:2015年10月25日

場所:ミルクイースト、新宿タイ料理

- ミルク倉庫との打ち合わせ
- sabbatical company 活動名決定

---

日時:2015年10月26日

- ベビー・ピー、イベント参加依頼

---

日時:2015年10月27日

- ベビー・ピー、イベント参加快諾

---

日時:2015年12月23日

- HP起ち上げ

---

日時:2015年1月11日

- milkyeast搬入、ベビー・ピー内入り

---

日時:2015年1月16日

- 「夕方帰宅してみると」スタート